

問題 1

(1) 各点の定義は次のようになる

- 触点： A の閉包 $\bar{A} = A^i \cup A^b$ 上の点を A の触点という。
- 集積点：点 $x \in \mathbb{R}^n$ が $A - \{x\}$ の触点であるとき， x を A の集積点という。
- 孤立点：点 $x \in A$ が A の集積点でないとき， x を孤立点という。

(2) $B^i \cup C^i = \emptyset$ であれば明らかに成り立つ。以下では $B^i \cup C^i \neq \emptyset$ とする。

$x \in B^i \cup C^i$ をとる。このとき， $x \in B^i$ または $x \in C^i$ となる。 $x \in B^i$ のとき，ある $\epsilon > 0$ が存在して， $B(x, \epsilon) \subset B \subset B \cup C$ となる。したがって $B(x, \epsilon) \subset B \cup C$ となり， $x \in (B \cup C)^i$ となる。 $x \in C^i$ のときも同様にして $x \in (B \cup C)^i$ がいえる。以上により， $x \in B^i \cup C^i \Rightarrow x \in (B \cup C)^i$ となり， $B^i \cup C^i \subset (B \cup C)^i$ が成り立つ。

(3) \mathbb{R} 上で考える。 $B = [0, 1]$ ， $C = [1, 2]$ とする。このとき， $1 \notin (0, 1) \cup (1, 2) = B^i \cup C^i$ および $1 \in (0, 2) = (B \cup C)^i$ となり，左辺の集合と右辺の集合は等しくならない。

問題 2

(1)

$$\begin{aligned} D &= \{(x_1, x_2) \mid \max\{|x_1|, 2|x_2|\} < 2\} \\ &= \{(x_1, x_2) \mid |x_1| < 2, 2|x_2| < 2\} \\ &= \{(x_1, x_2) \mid -2 < x_1 < 2, -1 < x_2 < 1\} \end{aligned}$$

となる。よって集合 D を図示すると次のようになる。境界は含まない。

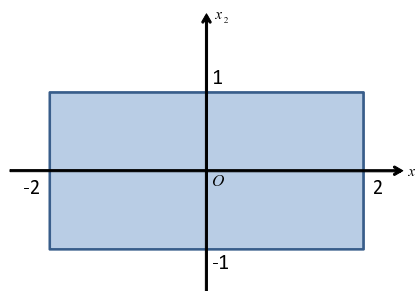


図 1 集合 D の図示

(2) $p = (1, 0)$ とする。内点の定義より，ある $\epsilon > 0$ がとれて， $B_\infty(p, \epsilon) \subset D$ となることを言えばよい。距離関数 d_∞ のもとでの球 $B_\infty(p, \epsilon)$ は

$$\begin{aligned} B_\infty(p, \epsilon) &= \{x = (x_1, x_2) \in \mathbb{R}^2 \mid d_\infty(x, p) < \epsilon\} \\ &= \{x = (x_1, x_2) \in \mathbb{R}^2 \mid \max\{|x_1 - 1|, |x_2 - 0|\} < \epsilon\} \\ &= \{x = (x_1, x_2) \in \mathbb{R}^2 \mid 1 - \epsilon < x_1 < 1 + \epsilon, \epsilon < x_2 < \epsilon\} \end{aligned}$$

となるので、図形的にいえば球 $B_\infty(p, \epsilon)$ は p を中心とする 1 辺の長さが 2ϵ の正方形になる。したがって、例えば $\epsilon = 1/2$ とすれば球は D に含まれる (図 2 参照)。実際、

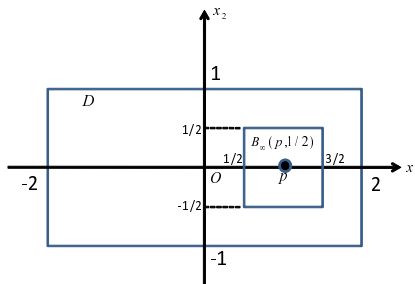


図 2 包含関係の図示

$$B_\infty(p, 1/2) = \{x = (x_1, x_2) \in \mathbb{R}^2 \mid 1/2 < x_1 < 3/2, -1/2 < x_2 < 1/2\}$$

となり、 $B_\infty(p, 1/2) \subset D$ となることが容易に確認できる。

(3) $q = (0, 1)$ とする。図形的にとらえると、 q を中心とするどのような半径の球であっても D および D^c と共有点を持つ (図 3 参照)。式の上でもこのことを確認する。 $\epsilon > 0$ とすると、 $B_\infty(q, \epsilon)$

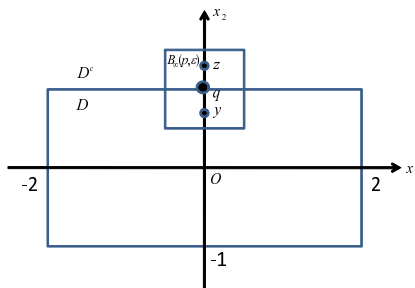


図 3 包含関係の図示

は

$$B_\infty(q, \epsilon) = \{(x_1, x_2) \mid -\epsilon < x_1 < \epsilon, 1 - \epsilon < x_2 < 1 + \epsilon\}$$

となる。ここで、 $y = (0, 1 - \epsilon/2)$ 、 $z = (0, 1 + \epsilon/2)$ とすると、 $y \in B_\infty(q, \epsilon)$ 、 $y \in D$ および $z \in B_\infty(q, \epsilon)$ 、 $z \in D^c$ となる。したがって、 q は D の内点でも外点でもないので D の境界点である。

問題 3

ユークリッド空間 \mathbb{R}^2 における開集合系を D とする。位相 (\mathbb{R}^2, D) のもとで、 E の内部 E^i 、外

部 E^e , 境界 E^b は

$$\begin{aligned} E^i &= \{(x_1, x_2) \mid x_1^2 + x_2^2 < 1\} \\ E^e &= \{(x_1, x_2) \mid x_1^2 + x_2^2 > 1\} \\ E^b &= \{(x_1, x_2) \mid x_1^2 + x_2^2 = 1\} \end{aligned}$$

となる .

$D_0 = \{\emptyset, \mathbb{R}^2\}$ とする . 密着位相 (\mathbb{R}^2, D_0) のもとでは E の内部 E^i , 外部 E^e , 境界 E^b は

$$\begin{aligned} E^i &= \emptyset \\ E^e &= \emptyset \\ E^b &= \mathbb{R}^2 \end{aligned}$$

となる .

$D_1 = 2^{\mathbb{R}^2}$ とする . 離散位相 (\mathbb{R}^2, D_1) のもとでは E の内部 E^i , 外部 E^e , 境界 E^b は

$$\begin{aligned} E^i &= \{(x_1, x_2) \mid x_1^2 + x_2^2 < 1\} \\ E^e &= \{(x_1, x_2) \mid x_1^2 + x_2^2 \geq 1\} \\ E^b &= \emptyset \end{aligned}$$

となる . 以上のような例を用いて説明すればよい .

問題 4

$x, y \in S$, $\alpha \in [0, 1]$ とする . このとき , $\alpha x + (1 - \alpha)y \in S$ となることを示せばよい . そこで任意の $z \in \mathbb{R}^n$ に対して $f(\alpha x + (1 - \alpha)y) \leq f(z)$ となることを示す . x, y は大域的最小解であるから , $f(x) \leq f(z)$ かつ $f(y) \leq f(z)$ となる . このことを踏まえると ,

$$\begin{aligned} f(\alpha x + (1 - \alpha)y) &\leq \alpha f(x) + (1 - \alpha)f(y) \\ &\leq \alpha f(z) + (1 - \alpha)f(z) \\ &= f(z) \end{aligned}$$

となり , $f(\alpha x + (1 - \alpha)y) \leq f(z)$ となる . 以上により題意が成り立つ .